

第3回行政改革推進委員会 記録

【開催日】 平成21年2月24日(火)午前10時00分～午後4時00分

【場所】 下呂市役所 下呂庁舎 3階 第1会議室

【出席者】 委員 今井 隆委員、今井博子委員、岩垣美雪委員、神戸 久委員、熊崎洋司委員、中島次郎委員、中島政彦委員、古瀬眞希委員、細江広仲委員、山本さとみ委員

欠席・・・今井かおる委員、矢嶋洋子委員

事務局 細江義和総務課長、野村 穰課長補佐

【進行】 会長

【配布資料】 レジメ 第3回下呂市行政改革推進委員会次第
行政改革推進委員会委員 資料提供(質疑応答)
第2次下呂市行政改革大綱(案)に対する意見
第2次行政改革大綱の答申(たたき台)

【決定事項】

- 1) 委員の意見及びパブリックコメントから、答申を作成するものとする。
- 2) 次回委員会は、3月9日(月)午後1時から開催する。会場は事務局一任。
- 3) 本日の意見をまとめ、答申原案を調整のうえ、3月4日までに委員に送付する。

【顛末】

次第に従い、会長が進行した。

(1) 諮問内容に対する質疑について

事前に提出があった質疑への回答をまとめた、「行政改革推進委員会委員資料提供」に従い、事務局から説明。おもな発言の要旨は次のとおり。

職員給与と市内民間企業の違いについて

- ・ 市職員の給与を全国平均の民間給与や、同じ公務員と比較しても意味は無い。下呂市の民間給与と比較すべきである。

施設管理経費について

- ・ 利用されない施設は廃止もやむをえないかもしれないが、上手く活かされていないものもあるのではないかと。利用者を増やす工夫も欲しい。
- ・ 郷土館は7館もあるが、郷土館めぐりのようなイベントを開催し、利用率を上げる工夫も必要である。
- ・ 振興事務所、福祉センター、保健センターなどに分散して職員が常駐する必要は無い。大きな建物に2～3人の職員しかいない場合など施設維持費がムダである。一箇所に集まるなど、節約をして欲しい。(施設の建設費は戻らないが、維持管理費は抑えることができる)
- ・ 飛騨川公園を利用する都市部の人からは、施設や環境に比較して利用料金が安すぎるという声もある。施設に見合った料金設定とされたい。

委員等について

- ・ 農事改良組合は年に1回程度しか活動しない地域と、数回活動する地域があ

り活動に差がある。

- ・ 森林造成組合長と間伐推進員は兼任でも差し支えないのでは。
- ・ 古いしきたりで活動している組織があるのではないか。
- ・ 委員会の組織を明確にして統廃合するべきではないか。
- ・ むやみに委員を減らすことは、行政に対して意見も言えないし監査機能も弱くなる。
- ・ どんな仕事をしているのか、わからない委員会もある。
- ・ 1人でいくつもの委員に任命される場合があり、意見が偏る恐れがある。

行政改革の進捗管理等について

- ・ 行政改革の進捗管理や評価を行う必要があるのでは？

大綱（案）13ページの「第4章実施体制」を参照していただきたい。

NPOによる互助の実現

- ・ NPOの設立は事務手続きが難しく、一般市民には無理だと思う。
- ・ NPOには魅力を感じるが、経理やら書類の作成など仕組み自体がよくわからない。専門家に依頼すると金がかかる。

詳しいことは総務課でもわかりません。総合政策課をご案内します。

下呂交流会館について

- ・ 人が集まるよう多くのコンベンションを開催するべきである。白川町では著名人によるイベントを多く開催し、たくさんの観客が訪れている。
- ・ 営業活動（プロモーション・積極的な情報発信が必要）

（2）諮問内容に対する意見について

市民への行政情報の発信について

- ・ 広報紙は、当たり前かもしれないが文字が多く、高齢者には読みにくい。見出しだけでも内容がわかるような工夫をお願いしたい。
- ・ ホームページがリニューアルしたが、目的を探しにくい。更新も遅い。どのように管理しているのか。

職員一人ひとりが情報発信の責任を負い、記事を更新している。

- ・ 目安箱や掲示板など、市民の意見を取り入れる場所も必要。
- ・ 長文ではなく、短く解り易く。そして市民を惹きつけるキャッチフレーズが必要。パワーポイント等のツールを使ってビジュアルに訴え、わかりやすい説明もお願いしたい。

自主財源の確保

- ・ 温泉だけではない市の魅力をもっと効果的にPRし、観光客を誘致することで収入を増やして欲しい。
- ・ ホームページ等を使い総合的なプロモーションが必要である。

市民参画について

- ・ 市民活動をPRする公式の場として市のホームページを使えると、市民活動の輪が広がると思う。広報紙も広報無線も合併前より使いにくくなった。

公営企業会計への繰出し金について

- ・ 公営企業会計の繰出し金はいくらぐらいか。過剰ではないか。

繰出し金の額を調査しお知らせします。繰出し金は基準が決まっており、無秩序に繰出しているわけではありません。

- ・ 下水道の接続率はどのくらいか。まずは接続数を増やすことが重要である。資料が手元に無いので後日お知らせします。

人材育成について

- ・ 職員の人材育成は人事評価の結果により、研修やカウンセリングを行うことになるが、受身である。もっと積極的な自己啓発が必要である。

人事について

- ・ 職員の中にも色々な個性や適正がある。適材適所の人事をお願いしたい。

公共事業について

- ・ 年度末に集中するのはいかがなものか。景気刺激策として年度の前半にも実施するべきだ。

市民の参画について

- ・ 市民のなかには、特技や資格など様々なスキルを持った人が少なからずいる。団塊の世代の退職を迎え、ますます増えてくると思われる。人材登録制度等によりスキルの活用を進められたい。
- ・ 通訳ボランティアがあるが、あまり活用されていない。市のPRが足りないと思われる。

(3) 答申について

事務局より答申のたたき台を説明し、委員会の指示を受けた。

- ・ 行政改革は市のビジョンを達成するための手段である。まずは市民が納得できるビジョンを明確にし、熱い気持ちをもって市民を喚起して欲しい。そうすることで行政改革にも積極的に取り組むことが出来る。
- ・ 自主財源の確保として、効果的な情報発信(プロモーション)が必要である。
- ・ 公共事業を年度内に平準化して実施するよう言及すべきである。
- ・ 市政情報を公開していただくことにより、市民の意見が増えると思われるが、それらの取り扱いについて、ルールが必要である。

(4) その他

次回の日程を、3月9日(月)午後1時から開会することを決定。